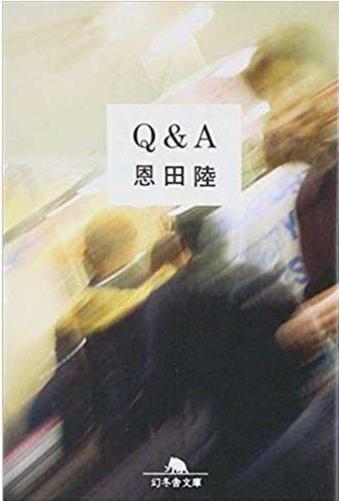


国語だよりR3 その4

相良中学校 国語部

読書感想文オススメ本①～羽入先生編～

『Q&A』恩田 陸／著



今まで読んだ小説の中で「この構成はおもしろい！」と思ったものを紹介します。まずは恩田陸さんの「Q&A」という小説です。この小説では大型ショッピングモールで起こったある事故が小説の核となっています。この事故はなぜ起こったかの原因がわかりません。なぜかすべての階でお客さんが一斉に逃げ出そうとし、大パニックになった結果、エレベーターに人が殺到して多くの死者がでてしまいました。

ショッピングモールで何があったのか…？

この小説は「Q」（質問）と「A」（答え）のやりとりで小説が進行していきます。まるでインタビューの記事を読んでいるようです。「Q」と「A」のやりとりで深まる謎や、人間としての怖さを感じられました。このような構成ですので、この小説には主人公が存在しません。主人公のいない小説。なかなかないと思います。「少し変わった小説を読みたいな～」と思ったときには、おすすめの1冊です。

恩田陸さんの作品には、「【真実】と【真相】の関係性」について考えさせられる作品が多いような気がします。



その【真実】と【真相】が1つのテーマとなっている作品に「木洩れ日に泳ぐ魚」（こもれびにおよぐさかな）という小説があります。この小説の構成はとてもシンプルです。

登場人物2人がアパートの部屋の中で会話をするだけの小説です。ある男女が一緒のアパートに住んでいましたが、別れて住むことを選び、最後の夜にアパートでお酒を飲みながら語り合います。しかし、語り合う内容は思い出話などではありません。お互いに相手が殺人を犯したと疑っているのです。そしてそれを白状させようとして心理戦が繰り広げられます。

最後には2人の会話から“あること”が明かされます……。

この小説も【真実】と【真相】が大きなテーマになっており、読んだ後にいろいろと考えさせられるものでした。深まる謎、段々明らかになる“あること”、そして……。

「木洩れ日に泳ぐ魚」という小説のタイトルも素敵です。